

建築人

2022

11

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.701





建築人

2022.11 No.701

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「みんな2020」2020年

第65回 大阪建築コンクール渡辺節賞 受賞作品

設計：興津俊宏

施工：奎工舎

撮影：母倉知樹

上町大地のエッジ、入り組んだ住宅街に建つ夫婦+子3人が暮らす設計者の自邸。限られた平面に懐の深い屋根をかけ、様々なレベルと気積をもった居場所を立体的に散りばめることで、家族の成長や日々の暮らしに応じて棲みこなす大らかなワンルーム空間とした。

2 大阪ここちエエ

4 Gallery 建築作品紹介

「ういるそば堀江店」

設計：石橋清志建築設計事務所

施工：象・ファクトリー

「香里ヌヴェール学院 改修工事 食堂開設計画」

設計：住まい工房 集+

kotarookuda architect office 一級建築士事務所

施工：住まい工房 集+コユールビルド

「大阪国際中学校高等学校」

設計：安井建築設計事務所

施工：竹中工務店

8 動静レポート

9 Topics

10 インフォメーション・事業案内

12 Close-up Osaka

14 記憶の建築

「三春町民体育館」1978年

3・11直後の町民を庇護した空間の力 / 松隈 洋

大阪ここちエエ

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

市民が望みようやく戻ってきた伝統の祭り。

この祭りは新型コロナウイルスの蔓延により3年ぶりに行われた。大阪府堺市の百舌鳥八幡宮にて五穀豊穡を願い、座布団を積み上げたような形状の台座に太鼓を載せて担ぎ奉納をする伝統行事だ。ふとん太鼓は、大阪府河内・泉州地方や、兵庫県播磨・淡路などでも担がれている大型太鼓台で、中でも堺型と呼ばれるものの特徴は、ふとん太鼓全体の彫り物には神話や人情もの、風景、花鳥物が多く刻まれているもので、他にもふとんの下にふとん台と小屋根がついていたり、柱の地についている所までが通し柱となっているなどが他との違いだ。

ふとん太鼓の歴史は古く、江戸時代中期には住吉大社祭礼に担ぎ出されていたとされており、三村宮祭礼絵馬に太鼓台のような練り物が描かれている。

市内では、明治の中ごろまで祭礼時に氏子がだんじりや鉦を曳いていたが、明治29年に死傷者が出る事故が発生し練物曳行が禁止となった。その後、日露戦争に勝利したことで再開したが、昭和に入ると戦火により多くのふとん太鼓が焼失した。戦後には物資の不足等により質素な飾りつけではあるが復活し、また戦前のような豪華な飾りつけに戻ってきた。この日も、多くの市民が待ちに待ったふとん太鼓を一目見ようと境内や参道に集い、大きな掛け声とともに五穀豊穡と皆の幸せを願っている。

建築人 No.701 2022年11月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門

編集 建築情報部門『建築人』編集部

部門長：荻窪伸彦(編集人代表)

委員長：松下典央

編集人：飯田英二 梅田武宏 笠井志保 河合哲夫

茂籠一之 大松俊祐 橋本頼幸 牧野隆義

三谷勝章 武藤優哉 若江直生

事務局：山本茂樹 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

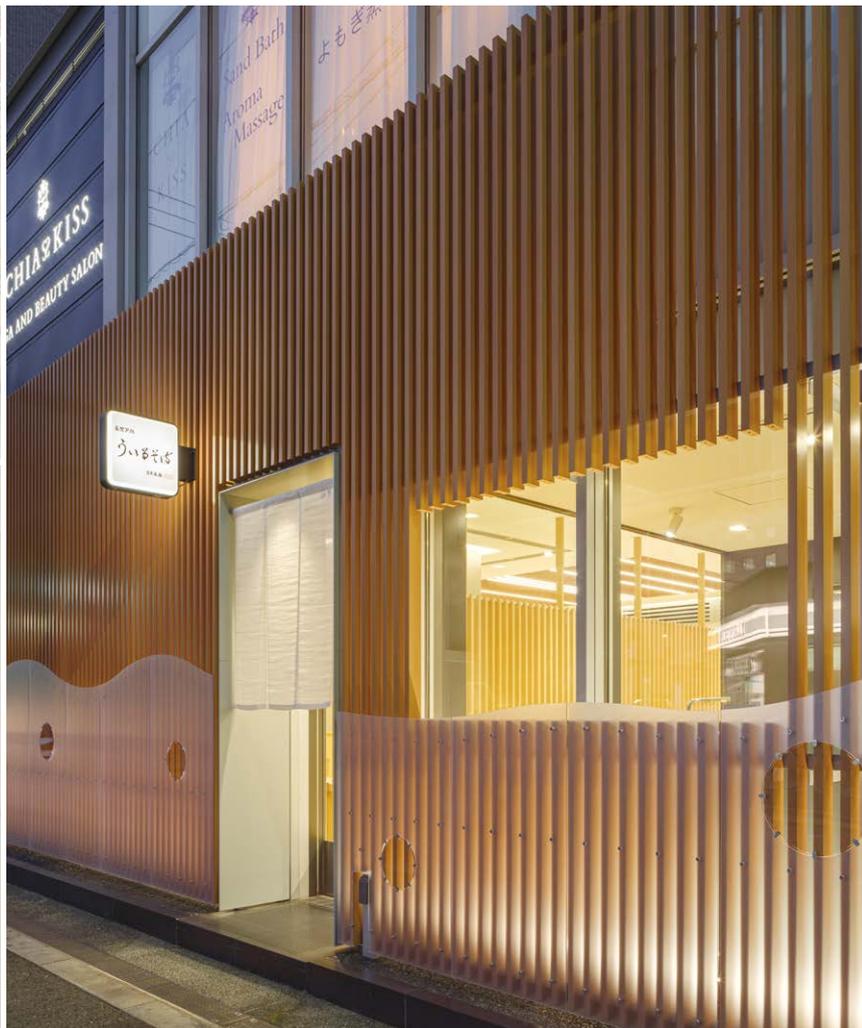
令和4年11月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

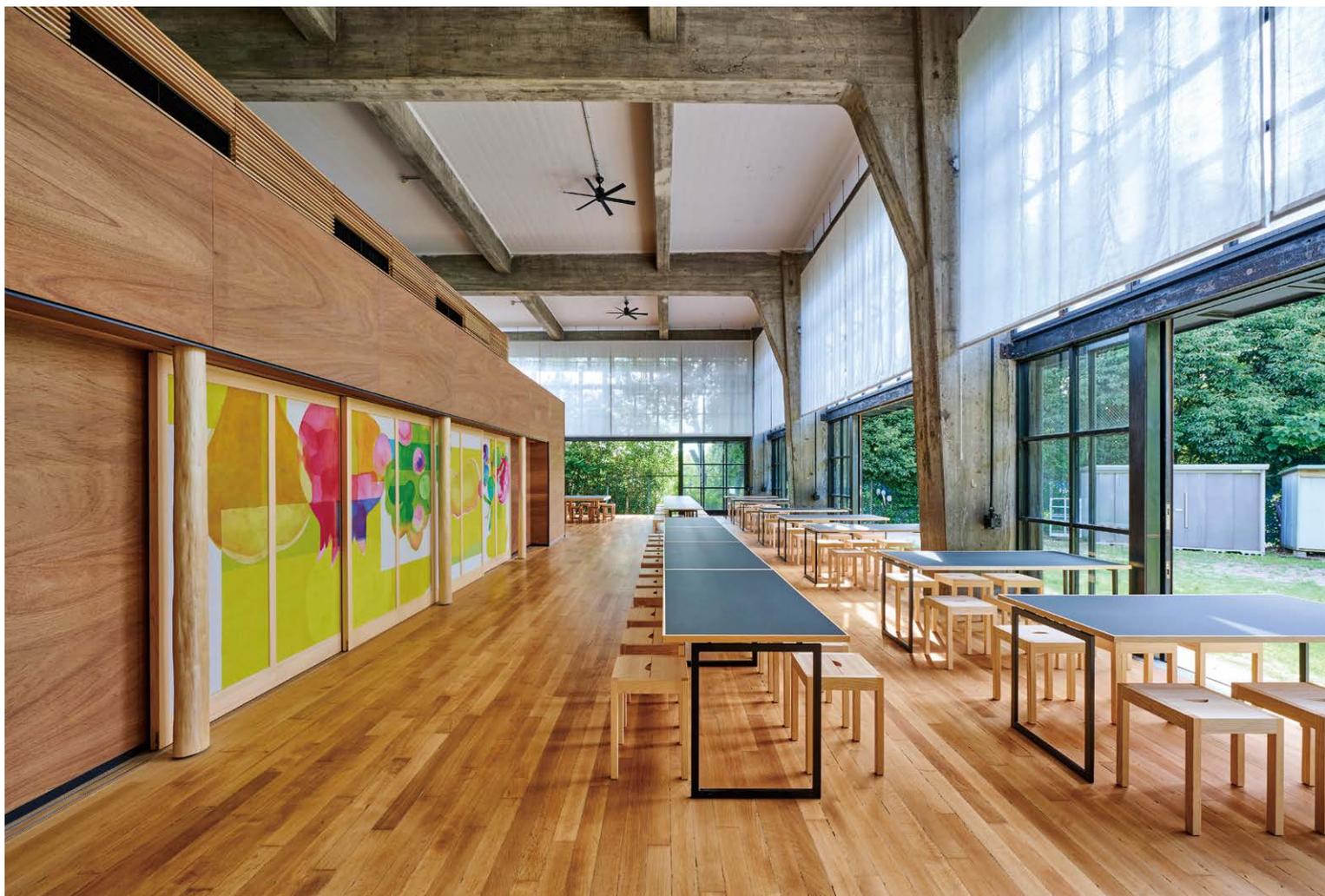
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



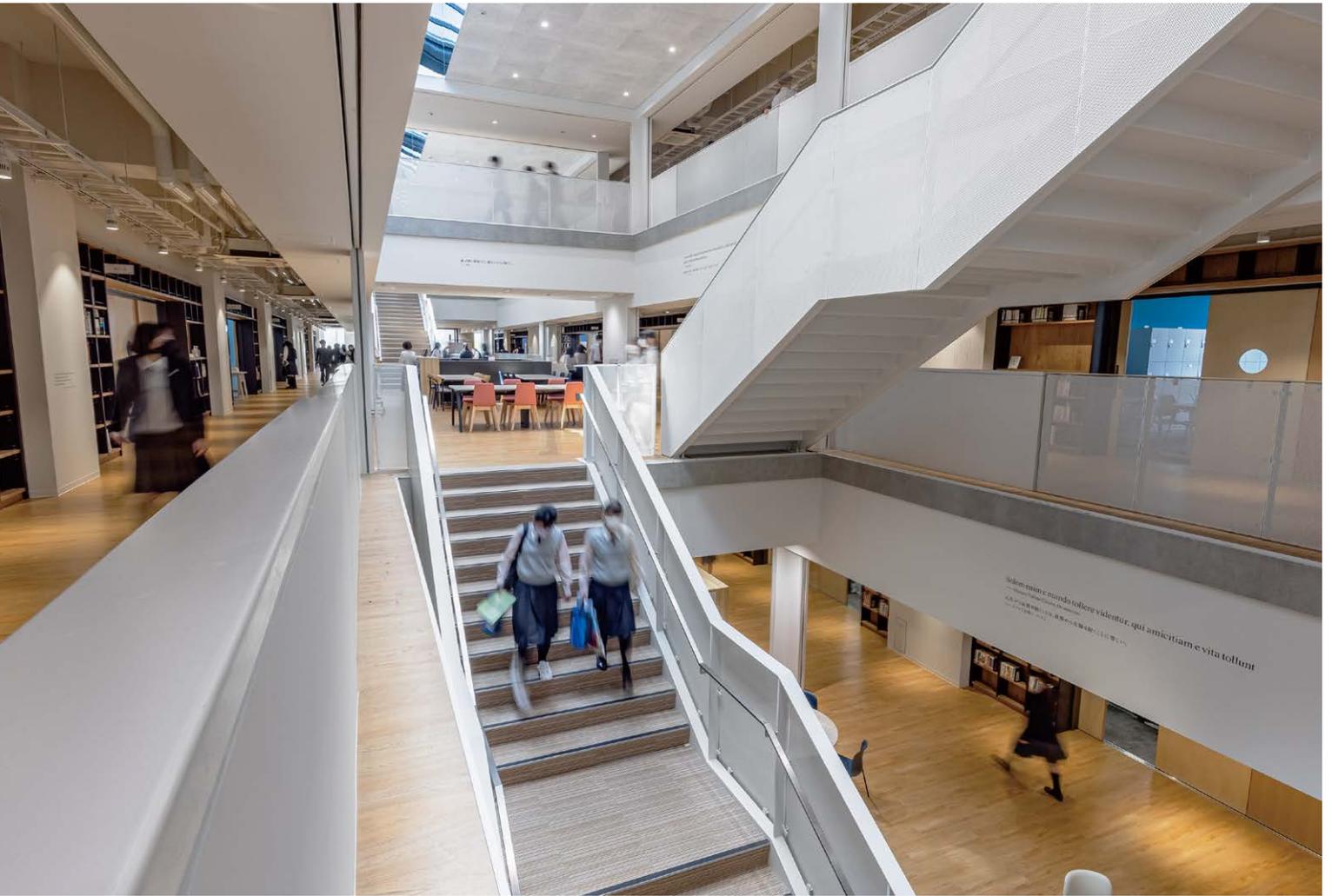
ういるそば堀江店は、長野県戸隠に本店を構える都市型店舗である。自家製麺をセルフサービスで提供するこの店舗は二面が道路に接した複合ビルの1階に位置する。縦格子を全面に採用することで、古くからある「蕎麦屋」のイメージとは異なるモダンさを表現している。広々とした店内には、利用者が自由な席の確保ができるよう、ソファ席・ビッグテーブル・カウンター席を設けた。日の光や街の喧騒は外部の縦格子により柔らかく遮られ、利用者の動線を方向づける内部縦格子と相まって、居心地の良い内部空間となっている。これらは、機能性及びデザイン性において重要な役割をもつ。

所在地：大阪市西区南堀江
用途：店舗
竣工：2021.09
店舗面積：226㎡
写真：松村芳治



1932年アントニン・レーモンド設計の香里ヌヴェール学院(旧聖母女学院)。その中の、モダニズム建築の様式で、当時の姿が残った歴史的価値の高い雨天体操場を食堂にコンバージョンし、それに伴う、食堂へのアプローチ空間を計画した。食堂では、南・東の大開口を最大限活かすように、厨房を最小限に納めることで、多様な活動の受け皿となる余白をつくり出した。またアプローチは南の中庭に出られる新たな動線として、内外が自然と繋がるギャラリー機能を付属させた緩やかなスロープを設けた。この計画では空間の再生と継承を目指し、利用者にとっての新しい居場所を作ることを目的とした。

所在地：寝屋川市美井町
用途：学校
竣工：2022.06
構造規模：RC造+木造
敷地面積：33,408.87㎡
建築面積：5,730㎡
延床面積：14,257㎡
写真：浅野豪



人の考えや文化・自然に「ふれる」機会に溢れた環境づくりにより、「感じて考えて、自分らしさに磨きをかける」学びの場を創り出した。グラウンドを中心に、円弧上に校舎棟と特別教室棟、個性あるMANABI庭が散りばめられ、学びの連鎖を起こす配置計画である。特別教室棟は、教科に関するMANABI庭と繋げ、屋内外を使い体験、体感を交えた授業を可能とし、生徒の記憶に残る教育空間としている。校舎棟は、4層をステップ状につなぐ「コミュニケーション commons」により全学年の教室を繋ぎ、年齢を超えた異学年交流の場となり、壁面は本棚を並べ、本に包まれた空間とすることで、生徒が日常から書物の知識にふれる場となる。

所在地：守口市松下町
用途：学校
竣工：2021.11
構造規模：(校舎棟)
地上4階・塔屋
1階、RC造
(特別教室棟)
地上1階、木造
敷地面積：18,130.55㎡
建築面積：4,631.84㎡
延床面積：9,716.29㎡
写真：エスエス大阪

第66回 大阪建築コンクール 応募要項

主催 公益社団法人 大阪府建築士会
後援 大阪府

◆趣旨

1954年(昭和29年)に創設した大阪建築コンクールは、建築士が職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、地域文化の振興に寄与するために、建築作品を評価し、優れた建築作品の設計者を表彰し讃えることを目的としています。

本賞は大阪府知事賞部門と渡辺節賞部門の2部門で構成し、1977年(昭和52年)に併設された渡辺節賞は、本会の初代会長の名を冠し、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者を讃え、さらなる発展を期待するものです。

審査員

委員長 橋爪紳也 (大阪公立大学研究推進機構
特別教授)
委員 植野甚一 (大阪府都市整備部住宅建築局
公共建築室室長)
荻原廣高 (神戸芸術工科大学准教授)
満田衛資 (京都工芸繊維大学教授)
山本麻子 (大阪工業大学特任准教授)

◆表彰要領

部門	受賞点数 (予定)	設計者		建築主 施工者
		賞状授与	副賞授与	感謝状授与
大阪府 知事賞	住宅・非住宅 各1~2点	大阪府知事	本会会長	
渡辺節賞	1~2点	本会会長		

◆審査方法

第一次書類審査の通過者を対象に、第二次現地審査を実施します。現地審査の日時は審査会で決定します。

◆表彰式

本会の定時総会の式典(2023年5月)で執り行います。

◆応募要項 (特記を除き2部門共通)

(1) 応募の種別	・大阪府知事賞部門と渡辺節賞部門の2部門で構成しています。
(2) 応募の資格等	・応募作品の設計者は、本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の方が対象です。 ・同一作品による大阪府知事賞部門と渡辺節賞部門への重複応募も可能です。 ・過去に大阪府知事賞を受賞した「建築作品」は応募できません。 ・他のコンクールにおける応募者の入替えは不可とし、判明したときは本賞の受賞は無効です。
渡辺節賞部門の特記	・完了検査済証の発行日時時点で39才以下の設計者が対象です。 ・設計者が連名の場合、応募者全員が前記に該当する39才以下の方が対象です。 ・過去に渡辺節賞を受賞した「設計者」は渡辺節賞に応募できません。
(3) 対象建築物	・2017年1月1日~2022年12月31日の間に竣工した建築物が対象です。 ・完了検査済証の交付を受けた建築物を対象とし、竣工年月日は完了検査済証の発行日です。 ・建築確認不要の建築物の完了検査済証は不要とし、竣工年月日は工事完了日です。 ・建築物の用途、規模は問いません。
(4) 対象建築物の位置	・近畿二府四県の範囲が対象です。

◆応募書類 (詳細は本会HPの応募に関する注意事項を参照)

- ① 応募用紙 …本会HPから様式の出力ができます。
- ② 建築概要書 …同上
- ③ 設計図書
- ④ 内外観写真
- ⑤ 完了検査済証の写し
- ⑥ 応募料の振込票の写し
上記の①~⑥をA4版のファイル1冊にまとめ、かつ②~④をPDFデータにしてご提出ください。

◆受賞の発表等

- ・受賞者には2023年4月に通知いたします。
- ・本会の会報誌「建築人」誌上で公表します。
- ・受賞者には、受賞年以降に本会の建築表彰部門に委員としてご協力をお願いすることがあります。

◆展示会と講演会

- ・受賞作品のパネル展示と受賞者の講演会を2023年10月に開催を予定しています。
- ・受賞作品のA1型パネルの制作をお願いします。

◆応募書類の提出期間

- ・2023年1月16日(月)~1月31日(火) 1/31の消印有効
- ・受付は平日の午前10時~午後5時 土日祝は休み

◇大阪建築コンクール基金にご寄附のお願い

- ・本コンクールの運営のためにご寄附を募っております。
- ・詳細は本会HPをご覧ください。

◆応募料

- ・本会正会員 20,000円/作品
- ・本会正会員外 40,000円/作品
- ・応募時に本会の入会手続きを完了された場合は正会員扱いです。

◇提出先・問合せ

(公社)大阪府建築士会/大阪建築コンクール事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル
TEL06-6947-1961 メールアドレス:info@aba-osakafu.or.jp
本会ホームページ(HP) <http://www.aba-osakafu.or.jp>

◇コロナ禍により「本応募要項」を変更する場合があります。

動静レポート

会長動静

- 9/26 東大阪市長面談
- 9/27 大阪府収用委員会
- 9/28 近畿建築士会会長会・協議会
- 9/29 香港政庁 25 周年記念式典
- 10/ 3 近畿建築士会協議会女性部会
- 10/ 5 摂津市長面談、富田林市長面談
- 10/ 6 熊取町長面談、堺市副市長面談
- 10/11 大阪府収用委員会
- 10/14 建築士会全国大会「あきた大会」
- 10/17 河南町長面談、千早赤阪村長面談、狭山市長面談
- 10/18 大阪府収用委員会
- 10/19 太子町長面談、理事会
- 10/20 田尻町長、大阪市都市整備局長面談
- 10/25 近畿収用委員会協議会秋季研修会



左より神保理事、森山一正摂津市長、岡本会長、田中副会長



左より横関万貴子委員、山添専務理事、上田副会長、吉村善美富田林市長、岡本会長、横関正人委員



左より北條代表幹事、木村元理事、岡本会長、藤原敏司熊取町長、田中副会長



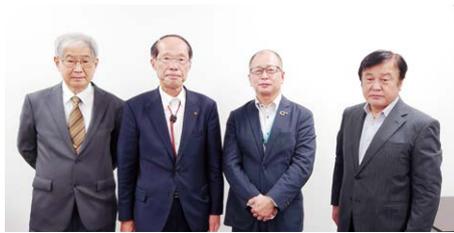
左より岡本会長、島田憲明堺市副市長、前田林成堺市建築都市局開発調整部長、田中副会長



左より山田委員、森田昌吾河南町長、濱田副会長



左より南本齋千早赤阪村長、岡本会長、濱田副会長、山田委員



左より湯谷委員、岡本会長、堀井善久大阪狭山市副市長、田中副会長



左より松村委員、濱田副会長、岡本会長、田中祐二太子町長



左より藤江委員、岡本会長、栗山美政田尻町長、田中副会長、小崎委員



左より濱田副会長、寺本讓大阪市計画調整局長、岡本会長、曾我部理事

10 月度 理事会報告

日時 10 月 19 日 (水) 16 : 00 ~ 18 : 00

場所 本会会議室 + Web

出席 理事 43/48 名 監事 2/2 名

(1) 入退会の承認

(人)	9 月	入会	退会等
正 会 員	2,372	3	7
準 会 員	34	0	0
特 准 会 員	25	0	0
賛 助 会 員	140	1	0
計	2,571	4	7

(2) 会計報告

(円)	9 月計	累計
収入	5,264,971	81,968,926
支出	9,879,389	68,622,503
差引	△ 4,614,418	13,346,423

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 第 66 回建築コンクール応募要項

昨年同様の内容をベースに、前回理事会で承認された審査員を明記した応募要項を承認しました。

(4) 機構改組と事務局改編

本会の会員減少や受託業務のオンライン化などによる運営に係る低調現状を踏まえ、その対策の一環として機構組織のスリム化と事務局縮小化を図ります。機構改組は、公益目的事業別の活動形態を基盤とし、関係する現行の委員会の統合を検討します。

事務局は、2 名の定年退職者を契機に公益目的事業別に倣う主担当職員を配置します。部門・委員会で統合を検討し、12 月の理事会で意見交換を行います。

一級・木造建築士設計製図試験を実施

10 月 9 日に一級・木造建築士設計製図試験を一級「事務所ビル」・木造「専用住宅(木造 2 階建て)」で、大阪では本会が運営を担いました。

▽受験者数

() 内は昨年比

	大阪	全国
一級	1,066 (+97)	10,509 (+9)
木造	75 (+12)	432 (+76)

全国大会あきた大会報告「会える“奇跡”と これからの全国大会」

日程：令和4年10月14日（金）
会場：あきた芸術劇場ミルハス
参加者：3000名

2022年10月14日に全国大会あきた大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により2020年に予定されていたひろしま大会は延期となり2021年に東京開催となったため、現地開催の大会は2019年の北海道大会以来3年ぶりとなります。秋田県建築士会の皆様は数年前から深く悩んでおられると感じました。現地参加者人数の見込が難しく、大交流会を開催して良いのか、会場では定員の何%収容するのか等、悩みは尽きなかったものと思われま。しかし10月に入って感染者数が減り、観光政策がスタートし、その上全国で最も晴れの日が少ない秋田で雲ひとつ無い晴天に恵まれるという、奇跡のような大会でした。私たちは久しく、戦争や疫病や飢饉とは縁遠い平和な世の中にいたため、遠くの友人と会って語り合うことができるありがたさをすっかり忘れていたのです。

現地では、秋田の建築を見学し、雪深く曇天の多いこの地で太陽の光を貴重なものとして障子を使用した明かりとりや長い冬の積雪時の土間等の工夫を見ました。また、秋田杉による建築や、角館では武家屋敷内の大木を大切に育む景観、風力発電等、自然と共存する暮らしについて学びました。

この数年私たちの生活はコロナにさんざん振り回されてきました。しかしその中でWEB会議というツールを手に入れ、ウッドショックや戦争等様々な事象に苦しみながらもニューノーマルと言われる生活に変わりつつあります。

今後2025年全国大会「大阪大会」へ向けての準備が始まりますが、現地へ来れない方や身体の不自由な方、海外にいらっしゃる方なども参加できるWEB配信やIT活用について検討し、リスクに負けない新しい全国大会のあり方を模索していきたいと考えます。

石貫方子（副会長）
あきた大会にて



あきた芸術劇場ミルハス



オープニングイベント なまはげ太鼓

建築相談室から（67） 面接相談から

本会の相談室では、電話相談の他に面接相談（1回1時間5,500円・事務局にて面談）と現地相談（35,000円・現地に相談委員の2人で赴く）があります。現地相談では、電話や面談ではわからないことを現地で建築士に確認することによって、よりの確なアドバイスができます。現地相談では、紛争に巻き込まれないために書面に残すことは一際せず口頭のみでのアドバイスに限定しています。今月は2021年度の現地相談の記録から紹介いたします。

クロスのひび割れの相談

2x4構法で9年前に新築した。築1年後から室内クロスのひび割れが多数発生しており、現地で確認してアドバイスが欲しい。という相談で現地に行っています。現地では、破壊調査をしないと釘ピッチなどは不明であるが、通常発生する範囲内であること。床下・小屋裏・基礎外周・外壁など一

通り相談者と一緒に見て周り、大きな不具合はないことをアドバイスしていました。また、新築時に柱状改良がされており、その報告書も出されている事も確認し、加えて、室内の傾斜も計測して、1mm/3mで問題ないことを確認しています。この相談者はいろんな情報で、不安になっていたようですが、現地相談を行い、大きな問題がないことを確認したことで安心してもらったようです。

大規模修繕のコンサルタント見積依頼

築48年71戸のマンションで前回修繕から15年が経過した。大規模修繕にあたってコンサルタントの見積もりが欲しいという相談で現地相談を行っています。このマンションは、理事長・副理事長が親子（母・息子）で20年来理事長が変わっていないこと、このままではマンションがスラム化しそうなためセキュリティ関係の工事を理事長・副理事

橋本頼幸（建築相談委員会幹事）

長親子が進めてきたこと、理事長は外壁塗装を進めたいと思っているが、副理事長は業者の都合で工事が行われてきたこれまでのやり方を見直し、劣化診断からコンサルタントの関与を考えていること、理事会としては他の理事は数名いるが理事長・副理事長で決めたことは委任してもらえる状態だとのこと、などをヒアリングで聞き取ったうえで、今回の建築相談の現地相談は副理事長単独の相談であったことから、管理組合として意見を統一して、再度依頼を行ってほしいことをお伝えしたとのことでした。

現地相談における建築士のアドバイス

この2件の現地相談を担当した建築士は、かなり誠実に相談に対応されています。直接の相談内容のアドバイスにとどまらず、現地に行ったからこそ見たり聞いたり感じたりしたことをアドバイスしていました。

Information

建築士会からのお知らせ

本会主催の講習会等では座席の離隔距離確保等の新型コロナ感染防止対策を行います。受講者におかれましてもマスク着用、手指のアルコール消毒等のご協力をお願いします。感染状況によっては延期、中止となる場合がありますので、最新情報は本会HPでご確認ください。本会以外の事業は主催者にお問い合わせください。

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。令和3年6月1日より、広域緊急交通路沿道ブロック塀等耐震化促進事業（補助金）における耐震評価機関となりました。スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞご利用ください。（業務内容）耐震診断報告書の審査、評価耐震補強計画書の審査、評価等（対象建築物）公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。（会員特典）申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

令和4年度監理技術者講習

（監理技術者以外の方も受講可能）
11/9、1/20、2/17、3/16 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。日時 11/9（木）、1/20（金）、2/17（金）、3/16（木）

時間 8:55～17:00
会場 本会会議室
定員 各回20名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015/2015-07-28-2.html>

大阪府知事指定講習
2022年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》
12/14 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。（本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。）
日程 12/14（水）
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健康会館6階ホール
最寄駅 大阪メトロ「谷町四丁目」下車
定員 40名（定員になり次第締切）
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,300円
（2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法）
※受講料及びテキスト代金は、事前にお振込み願います。その際振込手数料もご負担願います。

令和4年度建築士定期講習

2/7、3/2 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成31年度・令和元年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。
▼対面講義
日程・会場・定員
※2/7（火）大阪YMCA会館 100名
▼DVD講義
日程・会場・定員
※3/2（木）大阪府建築健康会館 50名
時間 9:15～17:00（各講習日共）
受講料 12,980円（消費税含。事前振込）
申込方法
申込用紙を建築技術教育普及センターHPからダウンロードしてください。（平成31年度・令和元年度受講者には、同センターから直接申込書を郵送しています。）
ご記入後、大阪府建築士会事務局へ持参していただくか、簡易書留にて郵送してください。

受付場所（送付場所）
※印の日程 大阪府建築士会事務局（注）各回定員に達し次第、受付を終了します。
▼建築技術教育普及センターHP
<https://www.jaeic.or.jp/koshuannai/teiki-koshu/kteki/kt-koshujisshi2021.html>

既存住宅状況調査技術者講習

更新講習2/22 CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。なお、2019年度に本講習を修了さ

れた方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。
日時 2/22（水）13:30～16:50
会場 本会会議室
定員 20名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も受付中です。

令和4年度大阪府ヘリテージマネージャースキルアップ講習（全6日間）CPD1日4単位（予定）

本講習は、ヘリテージマネージャーのさらなるスキルアップを目的に行う講習会です。動画講習も含めて全6日間の講座（単位数は計24単位）で保存活用、調査や修復技術などを学びます。
◇第1回 10/31～11/14 動画講習
テーマ：「歴史的建造物とまちなみの保存・修復」[大阪府文化財保存活用大綱および府内の文化財保存活用地域計画]
◇第2回 11/14～11/28 動画講習
テーマ：「文化財保存活用計画の意義とその実践」[保存活用地域計画と支援団体/保存活用計画について-和歌山県の活動から]
◇第3回 12/3（土）12:45～16:45
テーマ：「伝統建築の修復技術」
植物性屋根を中心として、檜皮葺き・柿葺き・茅葺き

講師 尾谷雅彦 川田徳宏
会場 金剛寺
◇第4回以降は講師・会場他は調整中。
定員 各回40名（申込先着順）
受講料（各回）
本会会員および大阪府ヘリテージマネージャースキルアップ委員会2,500円
会員外3,500円
大阪府ヘリテージマネージャーで、すべての講習を受講された方には修了証書を授与予定です。
申込は本会ホームページからWEB申込をお願いします。
※詳細は本会ホームページをご覧ください。

令和4年度大阪府ヘリテージマネージャー育成講座（補講）

ヘリテージマネージャー向け補講講座を公開します。どなたでも受講いただけます。
テーマ
社寺建築の歴史と変遷 櫻井敏雄
歴史的建造物の修復概論 足立裕司
会場 寺西家住宅（長屋見学あり）
定員 25名（申込先着順）
受講料 育成講座補講生1,500円、大阪府ヘリテージマネージャー1,000円、その他2,000円
※詳細は本会ホームページをご覧ください。

神戸八社巡り パート2

11/5 CPD3単位

シニアサロン委員会と国際委員会の共同企画で2019年に実施しました神戸八社巡りの続きです。今回は伊藤博文が初代兵庫県知事を務めた県庁舎が復元された「兵庫の津ミュージアム」を見学します。そこをスタート地点として七宮神社から楠正成を祀る湊川神社を参拝して八宮神社（六宮神社も合祀）、五宮神社を巡ります。
日時 11/5（土）13:00～17:00
集合場所 JR神戸駅中央口 12:30
定員 30名（申込先着順）
参加費 会員1,000円 一般1,500円
学生・本会新入会員
（2020年度以降入会）無料
懇親会 神戸駅周辺にて5,000円程度

茶室見学とお点前体験

～さかい利晶の杜～
11/12 CPD3単位

茶室シリーズ第2弾
千利休生誕の地「堺」で復元された茶室見学、茶道三千家指導のもとお点前体験を通して、茶の文化に親しんでいただきます。
日時 11/12（土）13:00～16:00
会場 さかい利晶の杜
参加費 会員2,000円、会員外2,500円
（展示観覧料・茶室見学・お点前体験費用含む）
定員 30名

最近の法令改正の動き～建築物省エネ法・建築基準法～

11/14～11/27 CPD3単位（予定）

本講習会では建築物省エネ法及び建築基準法における平成30年以後の改正の動きをおさらいしつつ、今後示される改正政令等の概要についてご紹介します。また、この改正の動きとは別に令和3年12月に起きた大阪市北区ビル火災を踏まえた建築基準法の改正も既に行われています。今後の防火・避難対策等に関する検討会報告書の内容も織り交ぜながら、今後の制度改正の動きについてもご紹介します。
日時 11/14（月）10:00～11/27（日）終日
開催方法 Microsoft TeamsによるWEB講習
受講料 建築士会会員1,500円
後援団体会員2,500円
一般3,500円

神戸ウォーカー

神戸における異国のたぐい
KOBEBEを巡りて世界を知る
11/19 CPD2単位（予定）

今回は主に世界四大宗教の一つであるイスラム教で日本最古の神戸モスク教会の見学や日本からブラジルを始め各南米等に移住

INFORMATIONの詳細は本会ホームページに掲載しています。本会の事業はホームページから申込できます。
【大阪府建築士会】大阪府中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階 <http://www.aba-osakafu.or.jp/>
メール info@aba-osakafu.or.jp TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

した方たちの資料がある移住ミュージアムを訪れ、そこでは館内の方に各展示の説明等を頂く予定です。もちろん、他の宗教の建築物も含めてのウォーキング見学になります。本見学が、あらためて、神戸と世界との繋がりを感じられる機会になれば幸いです。
日時 11/19(土) 13:00~17:00
集合場所 JR三ノ宮駅西改札口出口
12:45
定員 15名(申込先着順)
参加費 建築士会会員1,500円
会員外2,000円
学生・大阪府建築士会新入会員
(2020年度以降入会)500円
懇親会 場所 三宮 会費 6,000円程度
(トルコ料理飲み放題 予定)

脱炭素社会に向けて SDGsの取り組みと実践

11/25 CPD3単位(予定)

2015年に国連が掲げた開発目標であるSDGsは、発表から7年目を迎え、2030年に向けて、今年度は実行すべき年として佳境を迎えている。
そこで、SDGsに関して、建築士会を始めとする建築団体における取り組みや、全国の動向などに精通され、現在(公社)日本建築士会連合会 環境部会会長であり、脱炭素推進会議議長を務められている中村勉氏を講師に迎え、これまでのSDGsの動向を学び、これから何に取り組めばよいのかを考える講習会を開催いたします。
日時 11/25(金) 13:30~16:30
会場 大阪府建築健康会館6階ホール
受講料 建築士会会員3,000円
後援団体会員3,500円
一般4,000円 学生1,500円

建築士の会「東大阪」
わくわく探検(駅前シリーズ)第19弾
水の流りに思いをはせて
江戸、昭和へタイムスリップ-けいはんな線
北部編-
11/26 CPD2単位

建築士の会「東大阪」では、秋のわくわく探検(駅前シリーズ)を3年ぶりに開催します。今回は、近鉄吉田駅を出発して、大和川付替えに尽力した中甚兵衛顕彰碑、水路の交差点、古箕輪八幡宮を経て、盾津飛行場跡を歩き、終点の東大阪役所までの約5kmの行程です。旧大和川跡で人々がどう暮らしていたのか。また東大阪に飛行場があったというロマンを感じながら生駒山を眺めてみませんか。
地域の人、歴史、風土、暮らしを知りそのつながりを感じる、建築士の原点にかえる企画となっています。恒例の賞品が当たるクイズも御用意。皆様のご参加をお待ちしております。
日時 11/26(土) 9:00~12:30
集合 近鉄けいはんな線吉田駅改札
解散 東大阪市役所
定員 30名(定員に達し次第締切)
参加費 会員・一般1,000円 学生500円

住宅・中低層建築物における地盤 リスクと対策

12/9 CPD4単位(予定)

建築基準法施行令38条では、「建築物の基礎は、建築物に作用する荷重及び外力を安全に地盤に伝え、かつ、地盤の沈下又は変形に対して構造耐力上安全なものとしなければならない」とされており、建築に携わる者、支持力度の検討だけに留まらず、沈下や変形に対する安全性の確保が求められます。設計者・監理技術者として、法令違反となる行為とは何か、善管注意義務として配慮が欠けることとは何かについて、訴訟や事故・トラブル事例を通じて解説するとともに、小規模建築物の事例を引用し、「沈下」の原因と対策について解説します。
日時 12/9(金) 13:00~17:00
会場 大阪府建築健康会館6階ホール
受講料 建築士会会員4,000円
後援団体会員5,000円
一般6,000円

第66回大阪建築コンクール

1/16~31

本コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通して建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者を表彰するものです。
募集対象
大阪府知事賞部門、渡辺節賞部門
(完了検査済証発行日で39歳以下)
両部門共建築物の用途・規模は問わない
審査員
委員長
橋爪紳也(大阪公立大学研究推進機構特別教授)

委員
植野基一(大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室室長)
荻原廣高(神戸芸術工科大学准教授)
満田衛資(京都工芸繊維大学教授)
山本麻子(大阪工業大学特任准教授)
応募期間 1/16(月)~1/31(火)
応募資格
大阪府知事賞部門:本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者
渡辺節賞部門:本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者で完了検査済証発行日に39歳以下の者
応募料 本会正会員 1作品20,000円
本会正会員外 1作品40,000円

第17回国際委員会海外研修旅行 のご案内

2月22日~28日

ホーチミン市を訪れホーチミン市建築士会との交流協定の締結式参加、市内の歴史的建造物の視察、古都フエの視察にミーンズ遺跡(チャンパ遺跡)をみていきます。
日程 2023/2/22(水) 関空発、
28(火) 早朝帰国(現地5泊機中1泊)

参加費 191,000円
※但し、別途燃油サーチャージ必要
※参加者が15名以上の場合割引あり
※一人部屋利用の場合、追加費用要
定員 20名
締切り 12/20(火)
但し、コロナ等の情勢により中止等の対応が生じる場合有り。

行政からのお知らせ

令和4年度建設リサイクル法説明会(第2回)

11/28

「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)」のほか、建築物等の解体等作業に伴うアスベスト関係法令等に関する説明会を開催します。
主催 大阪府内建築行政連絡協議会建設リサイクル部会(大阪府と建築主事を置く府内17市で構成)
日時 11/28(月) 13:30~16:30
(受付13:00)
会場 寝屋川市立市民会館2階第1会議室
大阪府寝屋川市秦町41-1
参加費 無料
定員 75名程度(定員になり次第締切)
申込期間 10/21(金)~11/21(月)
電子申請申込アドレス
<https://www.shinsei.pref.osaka.lg.jp/ers/input?tetudukild=2022090099>
問合せ 大阪府都市整備部住宅建築局建築指導室審査指導課開発許可グループ
Tel.06-6941-0351(内線3092)

その他のお知らせ

カフェレストラン「リサイア・コーダ」でスイーツをたのしみながら『田尻歴史館リニューアルオープン見学会と講座』
12/4

大阪府指定有形文化財・近代化産業遺産の「田尻歴史館」が、約3年間の耐震補強工事を終えリニューアルオープンしました。スタンドグラスの美しい洋館や和館などの見学と、洋館1階のカフェレストラン「リサイア・コーダ」で修復に関する講座を開催します(茶葉付)。
主催 大阪府登録文化財所有者の会
後援 田尻町教育委員会
日時 12/4(日) 14:30~
会場 田尻歴史館
泉南郡田尻町吉見1101-1
最寄り駅 南海本線「吉見ノ里」駅下車
徒歩約7分
見学会案内 中野篤史(田尻町教育委員会)
講座講師 伊藤誠一郎((一財)建築研究協会)

講座テーマ
「田尻歴史館の耐震補強工事について」
参加費 2,000円
定員 24名(申込先着順)
申込 カルテッドオンライン
<https://www.quartet-online.net/ticket/20221204>
問合せ 大阪府登録文化財所有者の会事務局
E-mail info@osaka-tobunkai.org
詳細は「大阪文化財ナビ」に掲載
<https://osaka-bunkazainavi.org/>



被災建築物の応急危険度判定 (養成)講習会

12/19、2/14 CPD各3単位

地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。
日程 12/19(月)、2/14(火)
時間 受付12:30~、講習13:10~17:00
会場 大阪府建築健康会館6階ホール
定員 各回80~150名
(新型コロナウイルス感染状況により調整)
受講資格 大阪府内に住ままたは在勤の一級建築士、二級建築士、木造建築士並びに建築基準適合判定資格者及び特定建築物調査員
受講料 無料
テキスト代 1,600円(税込)
申込・問合せ 一般財団法人大阪建築防災センター企画課
Tel.06-6942-0190

石井修生誕100年記念展

11/3~11/27

2022年は、六甲山東端の甲山の南斜面に位置する目神山町に自邸を構え、関西の建築界を牽引してきた建築家・石井修の生誕100年となります。「建築に外観はいらない」と語った石井は、自然の地形を最大限に生かし、樹木や周辺環境と共存した建築を多く手がけました。今回、石井修の生誕100年を記念し、代表的な作品の図面・写真・模型を展示する展覧会を開催します。また、全4回のシンポジウムを開催するとともに、全作品をアーカイブした作品集の出版も行います。本展は、多様な展示資料を通して建築家・石井修の建築・理念・活動を多くの人々に知っていただくことを目的としています。
主催 石井修生誕100年記念展実行委員会
期間 11/3(木)~11/27(日)
会場 兵庫県立美術館ギャラリー棟
3階ギャラリー
入場料 無料
問合せ Tel.06-6949-1002
ishiiosamu100@gmail.com
<https://ishii-osamu100th.studio.site/>

「ワクワクがぞくぞく。「次なる茨木」に向けて」



茨木市 企画財政部 まち魅力発信課 係長 小橋一徳

1. 茨木市の地勢

茨木市は大阪市と京都市の中間地点にあり、市内にはJR、阪急、モノレールなどの鉄道網が3路線11駅、道路網では近畿自動車道や名神高速道路、新名神高速道路のICがあるなど、抜群の交通アクセスを誇っています。また、大都市の近郊にありながら茨木市北部地域(通称「いばきた」)では緑豊かな田園風景や山林地域が広がり、新鮮な野菜の直売所や市営のキャンプ施設もあります。人口は28万人超で、今も増加が続いています。

2. 川端康成が学んだ教育のまち

日本人初のノーベル文学賞作家、川端康成氏は本市の名誉市民です。3歳から18歳までを本市で過ごし、この時期に文学への志を深めました。その文学的素養を培った地である本市は、現在も文教都市として知られています。本市の教育の特徴として、「一人も見捨てへん教育」の実現をめざし、教育委員会と学校現場が一体となって、すべての子どもたちの確かな学力の育成に取り組んでいます。平成26年度以降150を超える市町村から視察を受けるなど、全国的にも注目されており、直近の全国学力・学習状況調査の結果では、小・中学校とも全調査の平均正答率が全国平均を上回る結果になりました。また、小・中学校の屋内運動場のエアコン設置やトイレの洋式化、中学校給食センターの整備など、教育環境の向上に向けた取り組みも推進しています。

3. 「次なる茨木」の実現に向けたまちづくり

本市では、「次なる茨木へ。」というブランドメッセージを掲げています。「茨」という漢字の中に「次」という文字があることから、過去・現在・未来をつないでいく「次々とひろがる、果てしない未来」をイメージし、これからの茨木のまちへの期待感を喚起したいとの願いが込められており、住み続けたいまちとして市民の皆さまに「ワクワク」していただ

るよう様々な施策をぞくぞくと進めているところ

です。ブランドメッセージを体現する取組みの一つとして、令和5年秋には、ホールや図書館、子育て支援、プラネタリウム、市民活動センターなど、様々な機能を備えた文化・子育て複合施設「おにクル」の完成を予定しています。

伊東豊雄建築設計事務所が設計を手掛けており、7階建ての各フロアを貫く吹き抜けをエスカレーターがつなぐ「縦の道」が特徴的な建物となっています。施設的设计コンセプトは、「日々何かが起こり、誰かと出会う」。「縦の道」によってそれぞれの機能が混ざり合い、日々いろんなことがいろんな場所で起きていることが何となく五感で感じられるような誰もが過ごしやすく、訪れたい「立体的な公園」のような場を目指します。

「おにクル」の整備にあたっては、平成27年12月に市民会館が閉館して以降、市民の皆さまとの対話により行政は「使いたくなる場」を提供し、使い方や活動等は市民自身で作りに上げていくというキーコンセプト『育てる広場』が生まれ、開館に向けて様々な取組みを積み上げてきました。これからも子育て支援や図書館など、異なる機能を融合させた「おにクル」らしい企画を展開することにより、新たなランドマークを育てる取組みを進めていきます。

一方、北部地域の「いばきた」では、安威川ダム周辺の整備を進めています。

安威川ダムは令和4年に堤体が完成した都市型ダムで、高さ約76メートル、長さ約337メートル。表面の石積みが美しいロックフィルダムです。市では、このダムの広大な湖面と周辺の自然豊かな環境を生かし、地域活性化の拠点となる施設や公園を整備中です。令和6年(2024年)春にオープン予定のこの公園は、山間部と市街地の間に位置することから、たくさんの方が交流し、新たなつながりやにぎわいが生まれる場所にすることを目指しています。

その実現に向けては官民連携で取り組んでおり、長さ日本一の人道吊り橋(世界でもトップ10)をはじめ、特産品の販売やマルシェなどのイベント、バンジージャンプ、ウォーターアクティビティなど、民間活力を最大限生かした柔軟な発想による魅力的な整備計画ができています。特に民間で整備する吊り橋のデザインは世界的にも珍しく、中心部分で橋を吊るワイヤーを歩行者より下に張ることで、空中を散歩するような体験が味わえます。さらに、車いすでも通行できるユニバーサルデザインを採用しています。

今後も「次なる茨木へ。」を合言葉に、市民の皆さまが「ワクワク」と期待感を持っていたけ



※社説プランは現時点での想定です。【変更の可能性あります】

安威川ダムイメージパース



おにクルイメージパース

**次なる
茨木へ。**
茨木には、次がある。

「高槻城公園芸術文化劇場」 次の50年、地域に愛される劇場を目指して

高槻市街にぎわい部歴史にぎわい推進課 多田 遼



高槻市では、1964年に開館し、多くの市民に愛された「高槻現代劇場 市民会館」に代わる、新たな劇場「高槻城公園芸術文化劇場」の整備に取り組んでいる。旧劇場から新劇場へ。本市にとって半世紀に一度のビッグプロジェクトを紹介する。

市民会館の誕生

高槻市は、大阪北部の人口約35万人の都市。市域には摂津峡やポンポン山など豊かな自然がありながら、JR高槻駅・阪急高槻市駅の周辺には大阪有数の商業集積地を有し、大阪・京都のベッドタウンとして知られている。また、その立地から、古くより交通の要衝として重視され、キリシタン大名・高山右近が城主を務めたことで知られる高槻城の城下町として栄え、現在の都市の基盤を形成したとされる。

高度経済成長期には、本市の人口が急増するなかで、市民の様々なニーズに応えるため、約2,000席の大ホール、結婚式場、図書室、会議室等で構成される複合型施設「市民会館」が1964年に開館した。

世代を超えて市民の思い出に残る

府内でも有数の大劇場として話題を集めた市民会館では、数々の著名アーティストや文化人によるステージはもちろん、「吹奏楽部でステージに立った」「子どもの発表会を見に来た」という市民も多い。また、成人式の会場としても多くの市民の記憶に残る。

当時のニーズの一つでもあった結婚式場も盛況で、オープンから2年間で1,500組が式を挙げたとされる。2004年に式場の利用は終了しているが、かつての宴会場や着付室は貸会議室として再利用され、ミラーボールやシャンデリアなど当時の面影が感じられる部屋も多い。この市民会館は、多くの市民に愛されながらも、老朽化のため、今年7月に58年間の歴史に幕を閉じた。

“3つのホール”新劇場の完成

「高槻城公園芸術文化劇場」(以下「新劇場」)は、市民会館の機能を引き継ぎながら、次の50年の地域の文化芸術の発展を見据えた施設を目指し、2023年3月のオープンに向けた準備を進めている。

この劇場の最大の特徴は、タイプの異なる3つのホールだ。劇場の顔とも言える大ホールは、市民の発表会や演奏会からトップレベルのプロの公演まで多様な演目に対応する高機能ホール。内装は、地元産木材を加工した

キューブを壁や天井に張り巡らせた全国的にも珍しいデザインを採用し、非日常の空間を演出しながらも、高い音響効果を実現した。緑に囲まれた小ホールは、音楽ホールとして、市民の発表会や演奏会で使用しやすい規模とした。内装は地元産木材のルーバーを配置し、サイドにガラス開口を設けることで緑と自然光を取り入れたリラックスできる空間となっている。一方で、黒を基調とした大スタジオは、大阪北部で唯一の本格的な演劇やダンス公演に使用できるホールだ。この2つのホールは、市民の多様なニーズに応えるため、新劇場で新たに付け加わった。

「普段使い」の劇場へ

新劇場は、ハレの場を演出するだけでなく、「普段使い」の劇場として利用されるように、音楽や演劇、ダンス、ミーティングなど様々なニーズに対応したスタジオを10室備えている。また、新劇場の建物周辺を、隣接する都市公園「高槻城公園」の新エリアとしてオープンさせ、公園の利用者にもトイレや授乳室などエントランス空間を常時開放する計画だ。カフェの出店も決定し、劇場内だけでなく公園でも楽しめる。

コンサートを見る目的がなくてもくつろいだり、気軽に立ち寄れる「たまり場」として親んでもらえることを期待している。

新劇場へバトンをつなぐ

市民会館が多くの市民に愛された劇場であっただけに、新劇場へのバトンの渡し方にもこだわった。

京都芸術大学と共同したユニークな試みとして、閉館した市民会館の建物を活用した、8日間限定のアートイベント「高槻芸術時間『インターロード』」を開催。(※インターロード(interlude)とは、劇の「幕間」に上演される短い喜劇や音楽の「間奏」を意味する英語由来の言葉。)市民会館の幕が閉じ、新しい劇場の幕が開くまでの期間を活用し、新劇場の開館記念イベントとして開催した。

国際的に活躍するアーティスト2組を招聘し、現代アートに変貌した市民会館をめぐるツアー、新旧の劇場を拠点に自ら街を冒険する作品など、この場所、この時間でしか成立しえなかった体験を多くの人に届けることができた。

旧劇場からのバトンを受け、これから開館準備が本格化する。来年3月のオープン以降、市民会館では実施してこなかった新しい文化芸術の分野にも挑戦する。



1964年開館当時の市民会館



高槻城公園芸術文化劇場 大ホール(約1500席)



同 小ホール(約200席)



同 大スタジオ(約150席)

高槻城下町再生のきっかけに

新劇場の位置する場所は、かつて大阪三大城下町として栄えた高槻城二の丸跡地だ。高槻城の歴史的な要素を取り入れ、外構にはかつての高槻城の堀や築地塀といった歴史的遺構を再現し、周辺道路は石畳風舗装に再整備される。エリア全体で本格的な城郭の風情を感じさせる空間を目指している。将来的には市民会館の跡地も「高槻城公園」の新エリアとしてリニューアルを予定している。今回の新劇場の整備を契機とした、今後の高槻城下町の街づくりにもご注目いただきたい。



高槻芸術時間
「インターロード」

三・一一直後の町民を庇護した空間の力

三春町民体育館 一九七八年

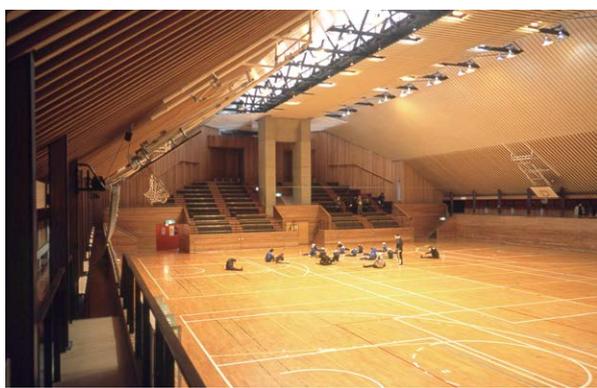
文・写真 松隈洋 [京都工芸繊維大学教授]

時の経つのは早い。すでに一昔のことになるが、二〇一三年四月下旬、大高正人の生まれ故郷の福島県三春町をはじめ訪れる機会があった。二〇一一年三月十一日の東日本大震災から二年後のことである。大高は、二〇一〇年八月二〇日に八九歳でその生涯を閉じたから、震災後の三春町を目撃することはなかった。翌年の震災直前の一月一〇日に開かれた偲ぶ会を起点に、元所員の藤本昌也、増山敏夫、野沢正光、中尾明、編集

者の石堂威と小田道子、都市プランナーの蓑原敬らによつて、その仕事を後世に伝えるべく、記念本『建築家大高正人の仕事』の編集委員会が結成され、筆者も末席に加わる。出版へ向けて具体的に動き出したのは、震災直後の余震が続く四月上旬のことだ。そして、思いもよらず、「大高の建築思想と方法を、ル・コルビュジエと前川國男に触れながら二〇〇枚でまとめてほしい」と論考の執筆を依頼される。しかし、残された彫



南側から見た正面外観



トップライトから自然光が降り注ぐ内観

大な資料を読み込むことで精一杯の状態が長く続いた。

それから二年、ようやく論考がまとまりつつある中で、大高の原風景であり、晩年に多く訪ねたくなった三春町をどうしても訪ねたく返すのだ。また、彼が幼い頃から繰り返し見上げていたであろう、有名な「滝桜」と呼ばれる樹齢千年の紅枝垂桜も見ておきたいと思った。

現地を訪れると、時期が少し遅かったのか、葉桜になりかけてはいたが、文字通り、流れ落ちる滝のような枝ぶりの桜の大樹が、その下に寄り集う多くの観光客を温かく包み込む光景にも出会うことができた。そして、続いて向かったのが、大高が三春町で最初に設計を手がけ、一九七八年に竣工した町民体育館である。

四月下旬とはいえ、時おり小雪の舞う肌寒い中に、体育館は、凜とした力強いたたずまいで、スクッと建っていた。その姿は、どこか自然災害に立ち向かう大樹のような印象を与える。幸いにも、突然の訪問にもかかわらず、スタッフが快く館内を案内して下さる。当時の様子を聞けば、骨太な構造体と大らかな屋根で構成された体育館は、震災にもビクとせず、耐え抜いたため、二ヶ月間ほどは、避難所として多くの町民が身を寄せていたのだという。二年後の今は、その痕跡はなかったが、高校の体育の授業なのだろうか、トップライトから降り注ぐ自然光の下で、地元生徒たちが伸び伸びと体操をしている。そこに流れる日常の穏やかな時間が、かけがえのないもの

に思えた。

前川國男の下で東京文化会館を手が

け、一九六一年に独立した大高は、一九七〇年代に入ると、「フラットルーフを開放せよ」（大高正人「独断の理由『新建築』一九七六年十月号）と宣言し、千葉県立美術館（一九七二〜八〇年）、群馬県立歴史博物館（一九七九年）、福島県立美術館（一九八四年）など、勾配屋根をモチーフとする一連の建築に取り組み始める。この体育館は、そうした流れの中で、郷里の三春町に実現する。それにしても、大高は、どのような思いから、時代の流れに逆行するかのような、屋根の造形に取り組み始めたのだろうか。この体育館の設計に着手する前年の一九七六年、業界紙に寄稿したエッセイの中で、大高は、次のように書き留めていた。

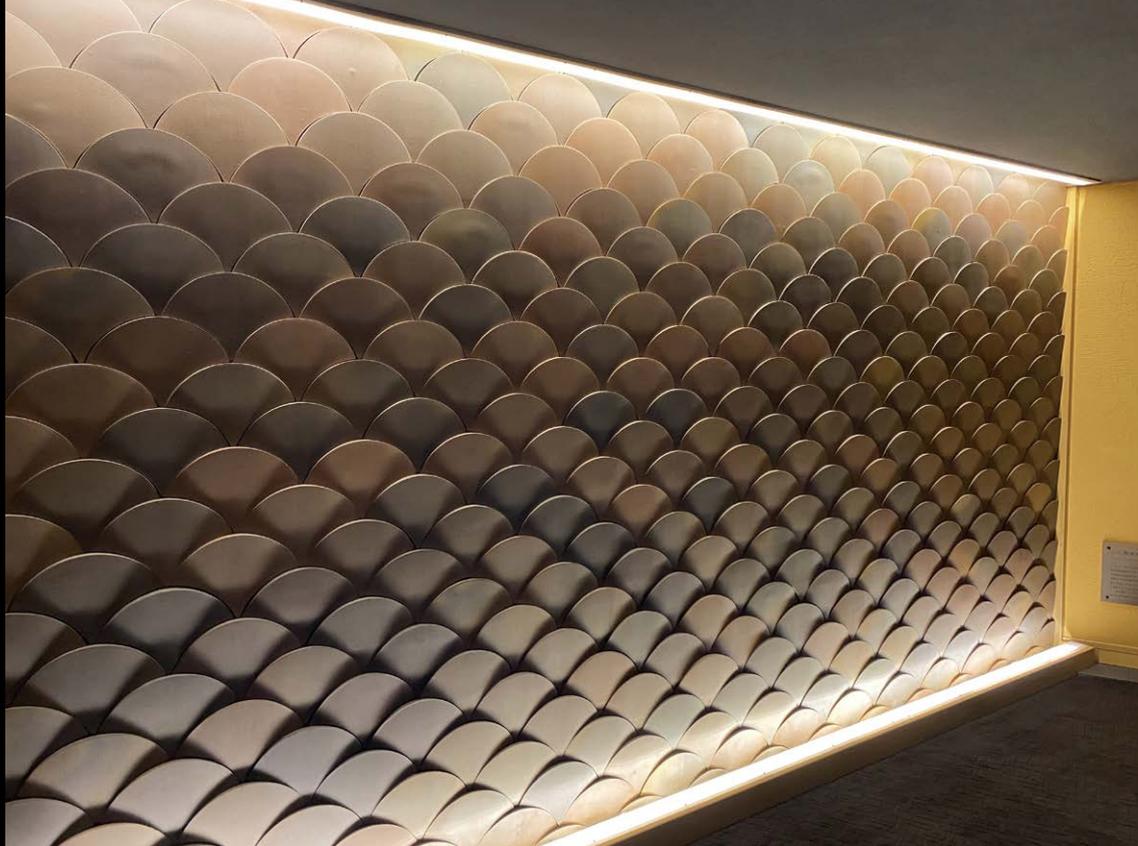
「此の両三年、建築学会賞や建設業協会賞の選考をお手伝いして、多くの建築を見せていただく機会を得た。日本列島を北から南まで、古い民家や寺社などもひろっては見て歩いたので、私には思いがけない充実した建築の旅であった。

その印象、その収穫、その反省の一つに、「現代建築は堅固には造られないうようになった」というのがある。

昔は、建築するといえど大抵、襟を正し財をかたむけて、土の上に堅固に建てなければすまない仕事であった。（中略）民家でさえ建てた人は財を消耗して一生を苦勞したといわれる。何世代も同じ家に住んで大切に使うのが当然の事であった。それが今、五年間に九百数十万戸の住宅が建てられている。日本の住宅の三分の一に近い戸数である。十五年もたてば全部建てかわってしまっ

どのスピードで、昔にくらべれば手軽に若干雑に建築されている。（中略）住宅は、このようにして堅固な不動産から、消費財の方に性格を移して来たのである。工場・倉庫・スーパーマーケット・商店等ももつとはつきりしている。建築は、ざばり生産や販売の道具である。（中略）建築材料を選択し、ディテールを決定する場面にも、堅固さはそれほど大切な条件ではなくった風がある。十数年で余りにも見すばらしくなった建築の多さに驚き、深く反省しないわけにはゆかなかつた。（中略）一方、旅の道すがら見る機会を得た秋田の民家―奈良邸（重要文化財）には、これらの建築にはない身の引きしめる堅固さがあった。厳しい風雪に耐え、作業に耐え、変わることなく大家族を支えた強さがあった。（大高正人「堅固ではない現代建築」『日刊建設工業新聞』一九七六年七月五日）

ここに示されたのは、高度経済成長によつて消費財化へと急激に変質した現代建築の現状に対する強い危機の念であり、かつての木造の民家にはあった「厳しい風雪に耐え」、「変わることなく大家族を支えた強さ」への敬意の気持だった。また、だからこそ、大高は、豪雪地帯の民家に倣うかのように、大屋根の造形によつて、堅固な建築の姿を実現しようとしたのではないだろうか。そして、三春町民体育館は、郷里の人々が日常的に利用する施設であることもあって、そんな大高の意志と願いが、より直截に注がれた姿として建ち上がったのだと思う。



【oiya (オイヤ)】

野水瓦産業株式会社
御原特殊瓦株式会社
株式会社タツミ

<https://www.oiya.jp/>

取材：橋本頼幸／建築情報部門委員



淡路瓦イズム



野水瓦産業(株)・御原特殊瓦(株)・(株)タツミの淡路島窯元 3 社のプロジェクトが立ち上がった。土と共生するために。

淡路島出身の著名プロダクトデザイナーである倉本仁氏とコラボレートして『oiya』プロジェクトがスタートした。

コロナ禍で発表会の開催が難しいなか、昨年夏、東京西麻布のカリモク・コモンズ東京で『oiya』の作品発表会を開催。

土は太古からの記憶を積層している。その土に新たな形と役割を与えること。それが『oiya』の目指すところ。

瓦製造技術は約 400 年前に淡路島に伝えられたと言われている。良質な粘土と海上交通、京都・奈良・大阪での瓦需要などの地理的条件が重なり、淡路島は日本三大産地のひとつとして発展してきた。しかし、現代の都市や生活空間には土を感じることは少なくなった。土の素朴さ、力強さ、柔らかさ、土が持つちからを改めて感じてもらいたい。淡路瓦にかかわる人たちはそれを強調する。

屋根材としての瓦の販売量は、最盛期の 1/6 までに激減した。瓦事業にかかわる会社や人々も最盛期の 1/4 まで減っている。瓦が現代建築で使われなくなったことに、後継者不足も追い打ちを掛ける。

現代建築において使われるタイルは国内で製造するところは少ないという。瓦は小ロットから、かつお客さんのニーズに合わせたものが瓦の良さ。野水専務はそう強調する。

『oiya』プロジェクトの三社は、それぞれ特徴を持つ。(株)タツミは鬼瓦や飾り瓦などを作る職人「鬼師(鬼瓦職人)」が一つ一つ手作り製作を得意とする。御原特殊瓦(株)は土を知り尽くし、特殊な瓦の成形・焼成を得意とする。野水瓦産業(株)は手仕事から最新技術を駆使した多種多様な瓦を製造する。この三社が集まったからできたプロジェクトである。

語源は、北欧で『島』を意味する「øy」に由来。出来あがった製品そのものだけでなく、島の産土(うぶすな)を意識し、次の時代に残す新しい「もの」づくり。

『oiya』の製品は、外壁材と家具の約 20 種類。野水専務はこれまでいくつか納入実績ができて、徐々に広がってきている実感を感じている。しかし、家具は一つ一つ手作りで大量生産にもかない。海外進出も視野に入れてホームページは英語と日本語の併記している。アジアのみならず、ヨーロッパ、アメリカにも出荷を考えるが、新型コロナウイルスの影響で輸送に時間を要する。様々な困難にぶつかりながらも、土の良さを前面に出した商品の開発を続ける。瓦のデザイン性の高さを店舗内装などにも使ってもらいたい。

長年培われた伝統と時代に合わせて挑戦する心意気が新しい化学反応を起こすだろう。

■淡路瓦のお問い合わせ先
淡路瓦工業組合
兵庫県南あわじ市湊 134
Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030
info@a-kawara.jp
<http://www.a-kawara.jp/>



1階リビングスペース。階段上部の開口から光が差し込む。



袋小路の前面道路からの夕景。開口部から複雑な内部が垣間見える。